

社会を守り、支え、創る「税金」の存在

宇和島市立三間中学校

三年 白崎 大和

最近は何かと、「増税」という言葉を耳にする機会が多くなった。そのたび憮然としてしまう人も少なくないだろう。しかし、納税には、僕達の生活を支えるといった重要な役割があることに気付いてほしい。

かくいう僕も以前まで、両親の給料から税金をひかれたり、消費税で価格よりも多くのお金を支払わなかったりすることを知っていたので、税に対して良い印象を抱いていなかった。ところが、ある出来事がきっかけで税への印象や考え方が大きく変化した。それは、「租税教室」と「一枚の紙切れ」だった。

ある日学校に、市の税務署から職員が来られ、租税教室が行われた。そこで見た、日本の税金の歳出総額のグラフに衝撃を受けた。なぜか。それは、社会保障が三十三パーセント、およそ三割をも占めていたからだ。確かに、医療費助成や、年金などの存在は知っていた。しかし、こんなにも多くの税金は、どこへ、誰へ、何のために使われているのか、疑問を持った。興味を持ったので調べると、その総五割は高齢者のための年金へと使われていた。少子高齢化が嘆かれるこの現代社会で、社会保障の金額は、年々右肩上がりとなることはほぼ確実な未来

だろう。僕たち、若い世代の人たちが税を納めて、今まで働いてくれたお年寄りに年金を分けるというのが今のシステムだ。しかしこのままでは、働く人達への税負担が大きくなってしまふ。そこで、年金を誰へ、どのくらい使うのかを改めて考え直すことが大切だと思う。

そんなことを考えた日の夜、リビングの机の上に一枚の紙が置いてあった。僕の母宛てに所得税の引き落としを知らせる手紙だった。正直、税について調べただけでは、あまり実感が湧かなかったが、こうして見るとやはり日常生活に大きく関係しているのだとつくづく実感する。

国民の三大義務の一つである「納税。」誰もが納め、誰を支える重要な存在だからこそ、こうして学ぶことができて良かったと思う。僕たち若い世代が生きていく未来の社会では、新たな課題も見えてくるだろう。そんな時、僕たちの税負担は増えてしまうかもしれないが、社会を成り立たせるため、みんなで協力して納めていきたいと思う。税を納めることは、僕たちが大切な社会の一員であることの証であり、社会を守り続けるための要素なのだ。あと数年もすれば、本格的に納税しはじめる人もでてくる。そんな時、納得して、そして誇りを持って納税することができる大人に、僕はなりたい。

